

第6回品質改善委員会 JR東日本における安全品質への取り組み事例紹介と工場見学



センター概要ほかの説明をいただく中山所長

東京総合車両センターの概要

平成16年に大井工場と山手電車区が統合し発足。山手線すべての車両を日々検査するとともに、湘南新宿ラインや京浜東北線、総武・横須賀線など首都圏を走る車両メンテナンスを行っている。

「究極の安全」を目指して

会社発足以来、一貫して安全を経営の最重要課題と位置付け、安全文化の創造、安全設備重点整備計画の推進、安全マネジメント体制の再構築、着実にリスクを低減させる取り組み、を4本柱に取り組みを進めている。お客様の安全のため

に、日々車両の品質向上を図っている。

CS（チャレンジセイフティ）運動

現場第一線の社員全員が安全にチャレンジしていく全社的運動。安全に関する取り組みで最もベースとなるもの。社員が率先して安全について考え、議論し、行動し、達成感を得ることを通じ、安全意識・感性を磨き、安全につなげていく。

マイハット・気がかりメモ

マイハットは自工程内の失敗体験を関係者間で共有するもの。気がかりメモは日常作業の中で感じている気がかり事項をおもて化するもの。ウィークポイントの顕在化、故障の芽の掘り起こしで、先取りの予防処置につなげている。いつ、どこで、内容、原因、改善内容、放置したままでの波及レベル等を記す。

「何のために」予防処置

何のためにその方法で行うのか・そのルールを守るのか。安全・品質パトロール、日常点検、配属教育等で風化防止・伝承を図っている。

実際に車両をメンテナンスしている工場もじっくり説明を受けながら見学。最後は各参加者より時間過ぎまで活発な質問がなされた。